

# INTERNATIONAL DEVELOPMENT & REGIONAL PLANNING MAGAZINE



by Dr. Katayama



by Dr. Katayama

研究テーマ：

EU 及び加盟国における  
空間計画の変容過程に  
ついて

出身地：武蔵国

趣味：

史蹟巡り、徳川家崇拝、  
野球観戦、将棋観戦

## 「葵の風」いきなり番外編 研究室紹介（国内の大学院受験志望者向け）

編集長から締め切りを延ばしてもらって（すみません）、この原稿は出張帰りの機内で書いていたりします。思えば、研究室マガジンの発行も、出張帰りの新幹線の車中、城所先生との会話の中で決まったことでした。主に大学院受験を検討している学外の方に、当研究室で何をしているのか、お伝えできればという趣旨でしたが、いざ始めてみると、研究室内で意外に好評で、逆に学外の方には全体像がわかりにくいところもあったと思いますので、そのあたりを補足したいと思います。

国際都市計画・地域計画（大西・城所）研究室は、高山英華名誉教授、伊藤滋名誉教授の国土・地域計画分野の流れを汲んでおり、都市工の学生からは「国際研」とか「広域研」と呼ばれているようです。研究室での活動は、都市工学専攻の講義・演習・輪講以外に、大きく分けて4つあります。

(1) 修士・博士研究：大学院生活の柱です。略称のとおり留学生が多いことが特徴で、大学院生の定期的な研究発表会（研究室会議）は週に1回、原則として英語で行われます。このほかに、日本語スピーカー向けの日本語会議が月に1回、また指導教員との個別ミーティングは随時行われます。

(2) 研究室の自主研究：地域計画、まちづくりに関わる様々な研究を、複数の教員・学生共同で進めています。昨年度は三遠南信

域、千葉県成田地域での1泊2日の研究室視察旅行や、福岡県久留米市に泊まり込んで中心市街地活性化方策を提案し、地元の方々の前で発表するワークショップを行いました。

(3) 教員が関わる学外との共同調査研究プロジェクトへの参加：諸外国の国土計画、都市環境政策などテーマは様々ですが、

他の研究室と比べると、中央省庁や民間企業との共同プロジェクトが多いでしょう。第2号の富山調査はそのひとつです。

(4) 専攻横断研究：昨年度からグローバルCOEプログラム「都市持続再生学の展開」（都市工学・社会基盤学・建築学3専攻）が始まっており、当研究室の教員・博士課程の学生も参加しています。マガジンで紹介のあったバリ国際ワークショップ（第1・2号）、ダッカ調査（第1号）、ザンビア調査（第3号）、高知調査（第1号）はその一環です。第3号のイギリス調査は(1) + (4)で、研究室の枠を超えた教員・学生間の交流も深まっています。

国際色豊かな環境で、様々な機会を活用しながら個人の関心を広げ、伸ばしていくことができます。研究室訪問も随時受け付けていますので、マガジンを読んで興味をもたれた方は、お気軽にご連絡ください。



Photo by Togu-san





### Lim fajin

研究テーマ：

地域イノベーションに着目  
した日韓クラスター政策の  
評価

関心事：

地域計画、産業政策、地域  
ガバナンス

出身地：韓国京畿道平澤市

趣味：ヨガなど

## 那覇新都心

今月始め、まちづくり大学院のユンさんの研究のお手伝いで、沖縄の那覇新都心の調査に行ってきました。あいにくの雨で、靴はボロボロになり、ジメジメ・しっとりした三日間でしたが、程よい暑さで、過ごしやすかったです。

那覇新都心は、那覇市の北部に位置しており、米軍の牧港住宅地区の跡地を都市再生機構（旧地域振興整備公団）が区画整理事業をコーディネートした新都心です。那覇市の有名な国際どおりから「ゆいレール」で二つ離れている「おもろまち」駅からいくことができます。個人的な印象としては、韓国での高層マンションが一戸建て住宅になっているような感じでした。那覇新都心の計画に携わった池永さんと車で回りながら、地権者との調整や合意形成の面では難航し、非常に大変だったとお話を伺いました。私が見た限り、那覇新都心には、土地利用計画図と現状は乖離があって、ミニ開発が徐々に進んでいました。すべてが計画通りにいくことはなかなか難しいのですが、ある程度の一貫性を保つことは非常に重要なんだなと思いました。

また、印象的だったのは、シーサーでした。皆さんもよくご存じのように、シーサーは沖縄を守ってくれるものとして神聖視されてきています。小学校を含めさまざまなところで豊かな表情のシーサーに会うことができました。

実は調査より、遊びが充実した旅行になってしまいましたが、沖縄の都市・地域計画というのは非常に特殊なので機会があればぜひ勉強してみたいと思いました。

実は調査より、遊びが充実した旅行になってしまいましたが、沖縄の都市・地域計画というのは非常に特殊なので機会があればぜひ勉強してみたいと思いました。



Sisa



Yui-rail

Earlier this month, I went to Naha new urban center with Mr. Yoon (Master's program in Sustainable Urban Regeneration: まちづくり大学院). Unfortunately, it was heavy raining, my shoes were worn out. However, three days in Okinawa was so comfortable with a not so high temperature, and easy to walk.

northern area of Naha city, and it is the new downtown area where UR Agency (Urban Renaissance Agency) coordinated to redevelopment the land where was the Maki Port residential quarter of the United States Army. We can go from the Omoromachi (おもろまち) station which is 2 station away

from famous "international street(Kokusai Dori; 国際どおり)" by "Yui rail" of Naha-city. For a personal impression, I thought that it resembled a Korean new town very much, and the only difference was the height of buildings.

The present conditions of the Naha new urban center are estranged from land use plan, and small-scaled development advanced slowly as far as I looked. I think that it is very difficult to develop as plan, but it is very important to keep some

consistency.

In addition, Sisa(シーサー) was so impressive who has been deified as protecting Okinawa. I could find Sisa having a various expressions everywhere, even at an elementary school.

Honestly speaking, the trip became to ordinary trip, but it was so excited and beneficial.

If I have an opportunity, I would like to study about urban planning in Okinawa, because it is so very special case in Japan.



The big tree in Naha new urban center



Manjamo(looked like a elephant)



Model residential district in Naha new urban center



by Norio Yoshijima

Complention of a  
Ph.D.course (2001)

博士課程修了後、米系投資銀行にて勤務することとなり、7年がたちます。資本市場の主のようなところで業務に携わる中、何故この程度の仕事が莫大な収益につながるのか、疑問を感じていたところ、市場全体が大きなショックに見舞われました、今は、ケインズ再考だの政府の役割を再度考え直す潮流になっていますが、都市計画（という言葉が適切かどうかは別にして）の学問領域をの捉え方を組み立てなおし、広げていく絶好の機会が到来しているのではないのでしょうか。

私はバブルは近いうちにまた来ると思います。中国や他の BRICs 諸国を始め、今後も膨大な数の中間層が生まれ続けていきますので、貯蓄は趨勢的に増えると思います。ただ、国内の制度不備（政府が信用できないとか、石油王が突然監獄に入れられてしまうロシアのように所有権が確立されていない、とか）で貯蓄の行き場を失っているという事態が今後も続きそうです。今回はありあまるカネが米国の住宅市場に向かいましたが、今後どこに向かうのか。一つはインフラといわれています。環境や途上国の経済開発のためのインフラ整備は世界的余剰貯蓄の受け皿になりうる、という考えですが、

それをうまく利用しながら望ましい環境整備につなげられないか。各国国内のインフラひいては都市開発は、結局は制度をどう作っていくか、というところに行き着くように思います。この意味で、（僭越ながら）今制度研究はこれまでにない役割と意義を有しているといえるのではないのでしょうか。

制度というどうしても堅苦しい国の法体系の研究や行財政システムの研究、というイメージになりがちですが、制度研究のテーマははるかに広いスコープを持っているはずだと思っています。国家と市場の緊張関係や補完といった古くて新しいテーマに加え、いわば政府でも市場でもない部分の役割の拡大、会社や役所の組織形態と人々の嗜好や意思決定はどのように関係するか、そこに社会の規範や慣習はどうはたらくのか、等、きわめて学際的な領域が広がっており、研究対象とするにこれ以上面白いエリアはないのではないかと思うくらいです。私個人も今は研究活動からは離れておりますが、「制度研究」ウォッチャーとして引き続きアンテナを張り巡らせていきたいと思っています。

Since I submitted my dissertation I have been working for an U.S. based investment bank for 7 years. During that period I have been involved in various transactions in the global capital market, wondering how these paper-works, building a massive pile of reports and documents, contribute its historical high profits records in the Wall

Street firms. After the crisis in 2008, now we are seeing Keynes is coming back to the economic debate, redefining the role of government/public sector in the post-liberalism world. I feel this transforming environment provides a great opportunity to re-building academic fields related to urban planning/urban development.

I believe the next bubble economy will be coming again when we are looking at the fact that the excessive savings from the emerging economies is continuously expanding to seek next investment destination. With a hindsight, that was an inefficient and ineffective institutional framework in the emerging markets which brought a significant capital flow into the

U.S. housing market, instead of driving it into the domestic investment. What is next? Infrastructure, and in a wider perspective, urban development would be a potential area. But when looking into urban development system, the institutional framework in each country/society should be coming back as an important agenda.

## Report

by JIN HUIQING



研究テーマ：

I'm interesting in Relation between city and rural. Especially, paying attention to various problems by the separation of city and rural in China. And researching about "Sustainable development with urban and rural integration planning in process of urbanization in China" in master's course  
趣味：Travel, Watching movie,.....

## Lecture report on urban welfare Graduate school of Machizukuri

今日は福島先生のバリアフリーとユニバーサルデザインに関するお話を聞いて、非常に感銘を受け、いろいろ考えることになった。福島先生は9歳で失明し、18歳で失聴した全盲ろう者である。「見えない」、「聞こえない」だけではなく、他者とのコミュニケーションまで断絶された絶望の時期もあったが、先生のお母さんによる「指点字」という新しいコミュニケーション方法の考案と「通訳」というサポート、盲ろう者にコミュニケーションの自由を保障してくれるサポートを制度的に受けられて他者とのコミュニケーションの機会を改めて得ることができたそうだ。現在は東京大学の教授としてバリアフリーとユニバーサルデザインなど、都市福祉分野における研究で活躍されている。

バリアフリーに対する私の限られた理解によると、それは障害者などの一部の人のために、バリア（障壁）を取り除くハード面での営みが主要だと思ったが、今日の授業を通じて、車椅子使用者のためにスロープを作るなどの物理的バリアフ

リーのほかにも、聴覚障害者用にテレビ放送に字幕をつけるとか、公的なウェブサイトは必ずアクセシブルにするといった情報・文化のバリアフリー、障害者ゆえに民間アパートへの入居を不当に拒否することをやめるといった意識や心の面でのバリアフリーなどのソフト面のバリアフリーもよくあることを知ることができた。また、法制度の合理性、公平性を保つなど障害者に限られていないバリアフリーも非常に重要であると認識した。障害その他の理由によって、法制度や行政の施策のうえで、不合理な差別的取扱いを受けたり、不利益を受けたりするような障壁は目には見えないので無視されやすいが、決して無視してはいけない部分である。

中国の場合は、戸籍制度をはじめ、都市だけを重視する国家体制のため、9億の農民が所得、教育、医療保険、社会保障、公共サービス、インフラ整備など様々な面で差別的取扱いを受けている。それらの農民たちは身体障害者ではないといっても、制度上の障壁のため、身体障害者

と同じく、あるいはもっと苦しんでいるかもしれない。こういった、不合理な国家制度は短期間内に簡単に改善できることではないが、バリアフリーの重要な

内容として重視されて、農村住民も都市住民と同等な待遇を受けられようになることが期待される。

I was very impressed and many thinking occurred after taking the lecture by Fukushima sensei on barrier-free and universal design. Fukushima sensei got blind at 9 years old and then deaf at 18. Besides the blindness and deafness, sometimes he cannot communicate at all with others and got into despair. Nevertheless, owing to the aids like finger-talking created by Sensei's mother as well as the "blind-deaf-specific interpretation" mandated legally, the blind-deaf retrieved communications with others. At present, being a professor of the University of Tokyo, Fukushima sensei is actively specializing in the research of barrier-free and universal design.

I had ever thought that barrier-free is a mere hard measure designed to remove barriers so as to facilitate motilities of the handicapped and others alike. Through the lecture today however, barrier-free is found not only physically efforts like setting up sloop for the wheelchair users, but also soft ones in our minds and awareness, including such activities as attachment of caption to

television program for the deaf, information and culture of websites barrier-free and so accessible to the public, termination of rejection of residence to the handicapped by private apartment owners.

Also, it is important to achieve legal barrier-free, without "obstacle" to the disadvantaged people and treat them equally. We are prone to but must not ignore various obstacles in legal and administration systems, like undue discrimination and unfairness.

In China, due to the household registration and other state policies favoring cities but neglecting rural areas, Chinese 900 million farmers are suffering unfair treatment in income, access to education, medical care, social security, public service, infrastructure, amenities, and so on, the distress caused by which is not a bit less serious than the inconveniences of the handicapped in their daily life and social exchanges. And so, although it is not expected to be improved soon, hopefully the national policy can be incorporated into the "barrier-free" system and treat equally the rural and urban people.

## Cover

by John Blakeney

## Dublin: history recorded in the landscape

It's a great pleasure but also a great challenge to try and capture the spirit of my home city (Dublin) in a few short words. The population of the city and its immediate suburbs is just over a million according

to the last census from 2006 but it has now effectively incorporated much of the surrounding area and this figure could be considerably higher depending on how the city is delimited.

by John Blakeney



From  
Editor



Contact

Like many cities, Dublin city-centre in its present form is a patchwork quilt of marks from history, let me introduce you to some of them!

Christ-Church Cathedral dates back to the beginning of Norman England's interest in Ireland. At this time in particular, religion was a powerful tool to control the population. However, by the 1500s, English influence had dwindled, and my own University, Dublin University (commonly known as Trinity College), established in 1592 was part of the project to re-establish control. In its present form it contains many fine examples of the colonial architecture found in the city.

Although much of the evidence of the industrial period in Dublin has disappeared, the imposing Guinness brewery provides a reminder of its former importance. Also looking at the excellent statue of a worker on the docks, one can easily imagine the bustle and activity that must have been seen

there.

Since independence in 1922, the search for a separate identity has led to some confusion as to whether we should be preserving colonial buildings or not. Take for example this Georgian terrace interrupted by offices. It is however, with access to the EU market that the neo-liberal modern era has made its mark and a considerable stock of large office buildings have been constructed in place of industrial buildings near the port, many of which cannot now be filled.

It is this latest phase which has stirred my own research concern in the criteria for and effects of institutional investment in property. I wonder how the city will change while I am in Tokyo!

web references

[http://www.irgot.cz/data/usr\\_001\\_pictures/dublin2.jpg](http://www.irgot.cz/data/usr_001_pictures/dublin2.jpg)

[http://www.awaycity.com/wiki/images/thumb/0/09/Statue\\_Linesman.jpg/400px-Statue\\_Linesman.jpg](http://www.awaycity.com/wiki/images/thumb/0/09/Statue_Linesman.jpg/400px-Statue_Linesman.jpg)

<http://media.photobucket.com/image/camden%20street%20georgian%20terrace%20dublin/djm01/CamdenStreetUpper003.jpg>

[http://image03.webshots.com/3/1/46/61/21714661SoCXJYziJO\\_fs.jpg](http://image03.webshots.com/3/1/46/61/21714661SoCXJYziJO_fs.jpg)

## COMMENTS

今回も数々のご協力ありがとうございました。皆様からのアイデアが原動力です。今後ともよろしくお願いします。(Kashiwazaki)

6月に新入生(学部生)が入りました。次回あたり、研究室での抱負なんかについて語っていただきましょう。(Takada)



東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻 国際都市計画・地域計画研究室

International Development & Regional Planning Unit, Dept. of Urban Engineering, The University of Tokyo

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部14号館9階914号室

<http://www.onishiken.t.u-tokyo.ac.jp/index.html> tel: 03-5841-6221

mail: please look at the our lab's website, and send us a mail!

Copyright © 2009 International Development & Regional Planning Unit. All Rights Reserved